

保育目標 『「やってみたい！」があふれる環境づくり』 -子ども理解を深め共に楽しむ保育を目指して-

項目	重点項目	達成目標・具体的施策	年度末評価
学びの場である保育の充実	「愛情」を基盤とした自尊感情の構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳児は週1回、幼児は月に2回程度、一人一人に視点を当てた話し合いを行う。『子どもの人権』を大切に、子どもの気持ちを受け止め子どもへの伝え方を意識して肯定的に関わるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合いは乳児は週1回、幼児は月2回行うことが厳しい時もあった。</li> <li>・乳児は各学年で話し合いはしていたが、乳児全体ではあまりしていない。乳児全体で話し合いや読み取りもしていきたい。</li> <li>・幼児は遊びを通してやりたい遊びを決め、遊びを深めている姿があった。子どもが何に興味を示し、遊んでいるのかを把握し、興味を伸ばし子ども一人ひとり自信がついていた。子どもの気持ちを受け止めて人権を大切にしていた。</li> <li>・保育者間で意見交流し、時間や気持ちにゆとりをもつことでさらに愛着を深めていきたい。</li> </ul>
	資質・能力を育む保育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修で学んだことを職員間で伝達したり掲示したりして、共有する。</li> <li>・子どもの姿を読み取り、職員間で語り合ったりすることで、環境を構成して子どもの遊びを豊かにしていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修で学んだことを職員間でその都度伝達・掲示し共有するよう努めた。</li> <li>・乳児は読み取りだけでなく、気になる子どもや環境構成などその都度みんなで話し合っ保育を進めている。引き続き取り組んでいきたい。</li> <li>・幼児はウェブを活用して子どもの姿を読み取り環境構成して、子どもの遊びを豊かにしている。</li> <li>・一人一人の子どもの姿から指針を意識しての話を学年ごとでは話し合いを進めているが、幼児全体で話し合うのはもう少し具体的に取り組む必要がある。指針を意識した話し合いを幼児全体で取り組むことが今後の課題である。</li> </ul>
	ちがいを認め合える仲間づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・写真を用いた読み取りでは、一人一人の子どもの思い等を深く読み取って人権意識を磨いていく。</li> <li>・用務、調理、保育者と役割の違う職員が多様な視点から関わった子どもの姿を積極的に共有し、ちがいを認め合える仲間づくりをしていく。</li> <li>・年に一度、人権研修に参加する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読み取りや環境作りの話し合いで子どもの思い等を深く掘り下げることの大切さを改めて学び、今後も人権意識の向上を図っていきたい。</li> <li>・園内の人権研修では小グループに分かれ、役割の違う職員と活発に意見交換することができた。子どもの個性を尊重できるような声かけや関わりができるように、日々子どもとの関わりの中で気づいたことを職員間で伝え合うことをもっと意識していくことが今後の課題である。</li> </ul>
	健やかな体の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育の中で栽培活動や収穫物を使ったクッキングを実施したり、給食の献立や旬の食材を掲示したりするなど、保育者と調理師と連携を取って年齢に応じた食育を行い、食に興味を持てるようにする。</li> <li>・子ども達が伸び伸びと体を動かして遊べる環境を設定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏野菜だけでなく、冬野菜の栽培も行い、育っていることを確認し、収穫して食べるまでの活動を十分にできていた。さつまいもを焼いたり、どんと焼きや飯盒炊爨をしたり、クッキングを通しての食育を多く行うことができた。また、園庭のみかんを使ったり食べたりする機会も多くあり、調理師と連携を取って活動をしていくようにしたことで、食への興味が深まっていると感じた。今後も栽培活動やクッキングの機会を作って、食育計画を進めていきたい。</li> <li>・夏場は暑さであり園庭に出られなかったが、秋以降は園庭で遊ぶ機会を多く作り、天候の良い日はなるべく出るようにした。4, 5歳児はドッジボールをして体を動かす機会を作ったり、乳児も遊具に興味をもって登ったりぶら下がったりしてのびのびと体を動かすことができた。また、丸太のアスレチックで遊ぶ環境ができたことで、遊びの幅が広がったと感じる。乳幼児期にのびのびと体を動かして遊ぶことの重要性を理解して、今後も環境を用意し、活動していくようにしたい。</li> </ul>

保育者の資質向上	職員研修・園内研修の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>講師を招いた園内研修を年1回行う。研修テーマを職員全員が見られる場所に掲示し、常に意識した保育を行う。</li> <li>乳幼児共に写真での子どもの姿を月3回、また乳児保育室内の環境構成について月1回話し合うことで、環境構成や保育への展開に生かす。</li> <li>園内外での研修に積極的に参加できるよう調整し、研修で学んだことを園内で伝え合えるように資料の掲示や、会議での伝達を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>研修テーマを振り返り、子どもと共に楽しみながら、「やってみたい！」があふれる環境作りを意識して保育ができた。写真での振り返りや読み取りは、月に1回ほどしかできないときもあったが、その都度、職員間で子どもの姿や遊びの様子を振り返ったり、情報交換したりできた。</li> <li>公開保育への参加、その他研修や食育検討会などの報告は、その都度上司に報告したり、職員会議で伝達したり、職員全員に回覧したりすることに努めることができた。しかしその中で、職員会議は正規職員がクラスで1名代表が参加することになっているが、会議で受けた内容の報告が回ってきていない職員もいた。会議に出た職員は、他の職員に伝達するまで責任をもって行うことが反省点である。次年度、職員会議後は、その日のうちにクラスの職員が集まり、報告を受ける時間を設け、確実に伝達していくことを提案したい。</li> </ul>
	チーム保育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>クラスを超えてチームとして保育を行うため、幼児は月3回、乳児は週1回程度、子どもの姿の読み取り、月に1回程度環境構成に関する話し合いを行い、全体で進めていく。</li> <li>用務、調理の職員を含めて子どもの関わるすべての職員子どもと関わっていく中で、気づきや思いを伝え合ったり協力して保育ができるように、話しやすい雰囲気づくりをしていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日々保育をする中で、子どもの様子から遊びを振り返ったり、環境構成や援助について話したりする機会を持った。保育参観などをよいきっかけとしてクラスを超えて遊びを展開していく上で、職員同士のつながりも深まった。しかし、全体での話し合いを持つことはなかなか難しい為、幼児会議では正規職員が中心と意見をまとめたり、計画を立てて進めたりしていった。さらに保育を深められるように話し合いや語り合いに重点を置く必要があり今後の課題である。</li> <li>用務、調理などの職員を含めて子どもや保育について話す場をもつことが難しかった。それぞれの子どもに対する関わり方など戸惑うこともあった。互いに思いや気付きを語り合える関係が望ましく、職員同士が繋がれるように、来年度は保育所内で語り合える場や時間を具体的に計画・提案し、職員へ積極的参加を促すことを提案する。</li> </ul>
開かれ信頼される園づくり	園情報の発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育システムを利用して、保育所の中での大切にしていることなどや普段の保育所での生活を保育の可視化と同時に伝える。</li> <li>保育システムで発信している子どもの姿をホームページにも記載できるようにする。またホームページでは給食献立の人気レシピなども掲載し保育所での生活を保護者だけでなく地域の方や学校関係者等にも知ってもらえる機会を作る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育システムでの配信は各クラス定期的に配信ができています。全くできていないわけではないがホームページでの配信は少ないのが現状である。調理では月に1度新メニューを作りホームページでレシピなどを掲載しているが、各クラスの様子などはあげることができていない。ICT担当の職員が中心となりホームページでの配信を行うことを意識していく必要があると感じる。(各クラス7週に1回、調理も含め)また幼児の配信が多い為乳児の配信も積極的に行う必要がある。保育システムだけでなくホームページでの配信をすることでより地域の方に保育所での取り組みをしてもらえる。そしてまずは職員が配信に対しての意識をもつことも大切である。</li> </ul>
	小学校教育との接続	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学校に保育所の行事や普段の生活の様子ドキュメンテーションにして送ることで、実際に見に行くことができなくても保育所での子ども様子を積極的に知ってもらえる機会をつくる。</li> <li>オープンスクールなどに職員が参加し、小学校での給食や図工・生活などの授業の様子を知る機会を持つことで、保育所での子どもとの関わりに活かせるようにする。また子どもたちが小学校に自然物を取りに行ったり、飼育している動物などを見せってもらったりすることで、小学校の環境を知る機会を持つ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保・小・幼の研修があり、様々な立場の方と意見交流する機会があった。そこで保育所での様子を話すと、「好きなことに没頭できるのはいいことですね」と言われたことで、今の保育の方針が間違えていなかったと自信に繋がった。</li> <li>小学校の自由研究では、アクセサリーをたくさん作り指輪屋さんをしたなど、子どもが好きな遊びをとことん突き詰めたものになっており、今保育所で行っている「それぞれの好きなことをする」という所に繋がっていると感じた。</li> <li>保育所の子どもが小学校に行く機会はあるが「私たちが頑張ったことも見てほしい！」という思いもあるため、小学校側が保育所の様子を見に来ることで、互いを深く知れるような交流を増やしていきたい。また、緑ヶ丘小学校に行き小学校の様子を見させてもらった。去年は小学校にヤゴ捕り等行かせてもらったが、今年は機会をもてなかった。来年度はもっと交流の機会をもちたい。</li> </ul>
	地域交流 子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>ホームページや玄関先掲示等で園庭開放を知らせ、園庭開放を利用する親子を増やす。園庭開放に訪れた時は積極的に声を掛ける。</li> <li>造園所やスーパー、図書館等保育の中で近辺の施設を利用し、意識をして地域と繋がっていく。他にも地域の行事の情報収集をして地域交流をする機会を増やしていく。(去年度では相撲等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>園庭開放を利用する親子は去年度より減った。理由として掲示が玄関先にあるため地域の方の目に入りづらいのではないかと挙がった。地域の方が見やすい場所に掲示をしたり、ホームページを更新したりしてもっと利用者を増やしていきたい。</li> <li>今年度は5歳児が高齢者福祉施設を複数回訪問し、交流の機会を多くもつことができた。感染症が流行っている時などはマスクをするなどの対応をしながら来年度も継続して交流していきたい。</li> <li>近所の園芸店に子どもたちが野菜の苗を買いに行ったり市場に野菜を買いに行ったりすることで地域の店や地理に子どもたちも興味を持ち親しむことができた。また今年度は3、4歳児も公園や神社・消防署等に行く機会を増やすことができた。</li> </ul>